



日本コミュニケーション障害学会
Japanese Association of Communication Disorders

第48回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 48th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

会期

2022年 5月28日(土)・29日(日)

会場

愛媛大学城北キャンパス

愛媛県松山市文京町3番

会長

立入 哉 愛媛大学教育学部

テーマ

もっと広く、もっと深く!



第48回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 48th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

会 期：2022年5月28日(土)・29日(日)

会 場：愛媛大学城北キャンパス

会 長：立入 哉

愛媛大学教育学部

主 催：日本コミュニケーション障害学会

第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 開催にあたって

第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会

会長 立入 哉

この度、第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会を2022年5月28日（土）・29日（日）の2日間の日程で、愛媛大学教育学部にて開催させていただき運びとなりました。

愛媛県松山市での開催は、2004年の第30回（高橋信雄学会長）以来となります。その際、立入は事務局長を務めておりまして、18年ぶりに全国各地から皆様方を松山にお迎えできることは私どもにとりまして大きな喜びです。

まず、この度の新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）蔓延により、様々な影響を受けられました方々に心よりお見舞い申し上げます。本原稿執筆時には3回目のワクチン接種が進んできており、全国的な蔓延状況が好転していく兆しが見えてきている段階で、このまま松山での現地開催ができるのではないかと期待しております。

本学術講演会では「もっと広く、もっと深く！」をテーマと致しました。海に囲まれている四国に住んでおりますと、本州に向かう度に海を渡ります。ご参加の皆様の多くの方々も、瀬戸内の海を大きく俯瞰し、またその色の深淵をご覧いただきながらのご移動になると思っております。

コミュニケーションに障害がある方々には、獲得時期、現在の年齢、原因などにより、日常生活に於いて様々な支援の継続が求められると思います。自らの領域だけに留まらず、コミュニケーション障害という広い枠で俯瞰することで、支援をさせていただける児者への支援方策に別の途（未知）が見えてくることを期待します。一方で、自らが専門としている領域についても、他の方の研究を知ることで、研究の深淵に気づかれることを期待します。

コミュニケーションの困難さはあらゆる場面で生じ、その様態は多岐多様です。そのような困難を感じている児者を支え、その支えから自らも学ぶという好循環を生む機会として、松山での本学会が一助となれば準備委員一同、喜びにあふれます。

最後になりましたが、本学術講演会の開催にあたり、さまざまなご支援、ご尽力をいただきました関係機関、広告出稿・企業展示で本会の運営にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

第48回日本コミュニケーション障害学会 学術講演会の開催にあたり

日本コミュニケーション障害学会

理事長 吉畑 博代

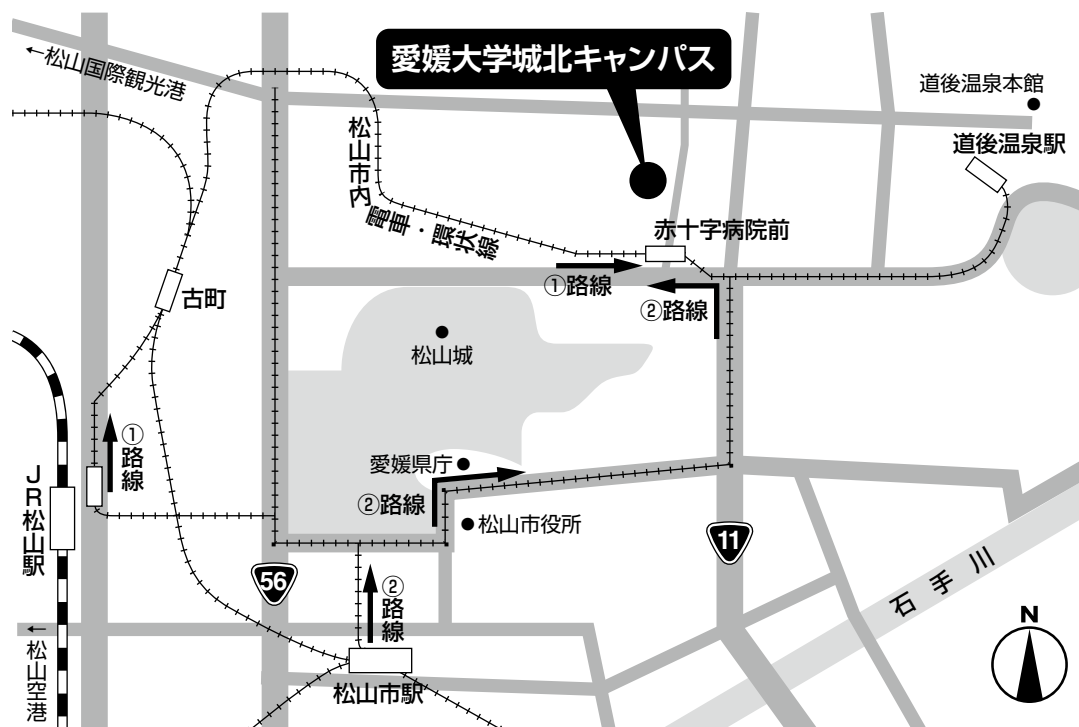
第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会は、愛媛大学教育学部の立入哉学術講演会長のもとで、2022年5月28日(土)と29日(日)に、松山市内にある愛媛大学城北キャンパスで開催されます。立入先生には、2019年春に打診し、大学内でもご検討の上、お引き受けいただけることになりました。打診した当時は、新型コロナウイルスの発生により、学術講演会の実施方法が変わることなどは、全く想定しておりませんでした。その約1年後の2020年春先から現在に至るまでの約2年間という長きにわたり、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、我々には様々な対応が求められてきました。リモートワークや自粛生活が続き、精神的に追い詰められたこともあったと思います。そのような中、ワクチン接種が進み、有効な治療薬も開発されてきました。昨今では with コロナ時代と言われることもありますが、今後も、個人レベルでできる感染予防対策を継続して行うことが大切だと思います。

去年は、大変残念で悲しい出来事もありました。わが国の言語聴覚障害領域の先駆者で、世界的にもご高名な研究者かつ臨床家でいらっしゃる笹沼澄子先生が10月25日に逝去されました。12月25日には国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスで「笹沼澄子先生を偲ぶ会」が開催されました。心温まる和やかな雰囲気の会で、笹沼先生が笑顔で我々を見守ってくださっているように感じました。笹沼先生のご遺志を継いで、本領域の更なる発展のために、今後もそれぞれが努力し続けることが必要と思います。謹んで笹沼先生のご冥福をお祈りいたします。またこの原稿の執筆時には、ウクライナでの目を覆うような惨状が日々報道されています。真実を見抜く力と平和の大切さを痛感しております。

さて第48回の学術講演会では、感染予防対策を行った上での対面による開催を予定しています。テーマは四国を取り巻く海のように「もっと広く、もっと深く!」となりました。特別講演や教育講演、シンポジウム、ランチオンセミナーなど、様々な企画を設定していただきました。海に囲まれた四国の地で、コロナ禍で追い詰められた精神を解放し、新たな学びや情報交換ができる場となることを願っております。会場の近くには、道後温泉や松山城、タオルで有名な今治もあります。お時間が取れるようでしたら、会場付近を散策していただくと、リフレッシュできるよい機会になると思います。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

末筆になりましたが、本学術講演会の開催に向けて、会長の立入先生、事務局長の石田彩先生、準備委員会の皆様方に、ご尽力いただきました。現地開催に加えて、後日1か月間にわたるオンデマンド配信も計画されており、大変ありがたく思います。現地参加が難しい方にとって、貴重な学びの場になると思います。お忙しい中、様々な工夫を行っていただきまして、心から御礼を申し上げます。

交通案内



会場：愛媛大学城北キャンパス (〒790-0826 愛媛県松山市文京町3番)

1. JR松山駅から：環状線①古町駅方面 赤十字病院前下車
2. 松山市駅から：環状線②大街道方面 赤十字病院前下車

■飛行機利用

羽田空港 (JAL/ANA)・成田空港 (Jetstar)、名古屋：中部国際 (ANA)、伊丹空港 (JAL/ANA)、福岡空港 (JAL)、鹿児島空港 (JAL)、那覇空港 (ANA)

➡ 松山空港 ➡ JR松山駅 (途中下車)

(※松山空港からはJR松山駅経由、松山市駅または道後温泉行きの接続バスが出ています)

■JR在来線「特急」利用

岡山駅・高松駅から、それぞれ「特急 しおかぜ」「特急 いしづち」➡ JR松山駅

■新幹線利用

広島駅 (市内電車45分) 宇品港 (高速船またはフェリー) 松山国際観光港※ ➡ JR松山駅
新尾道駅 (高速バス 2時間17分) ➡ JR松山駅 (高速バスの便数が少ないので注意)

■夜行フェリー

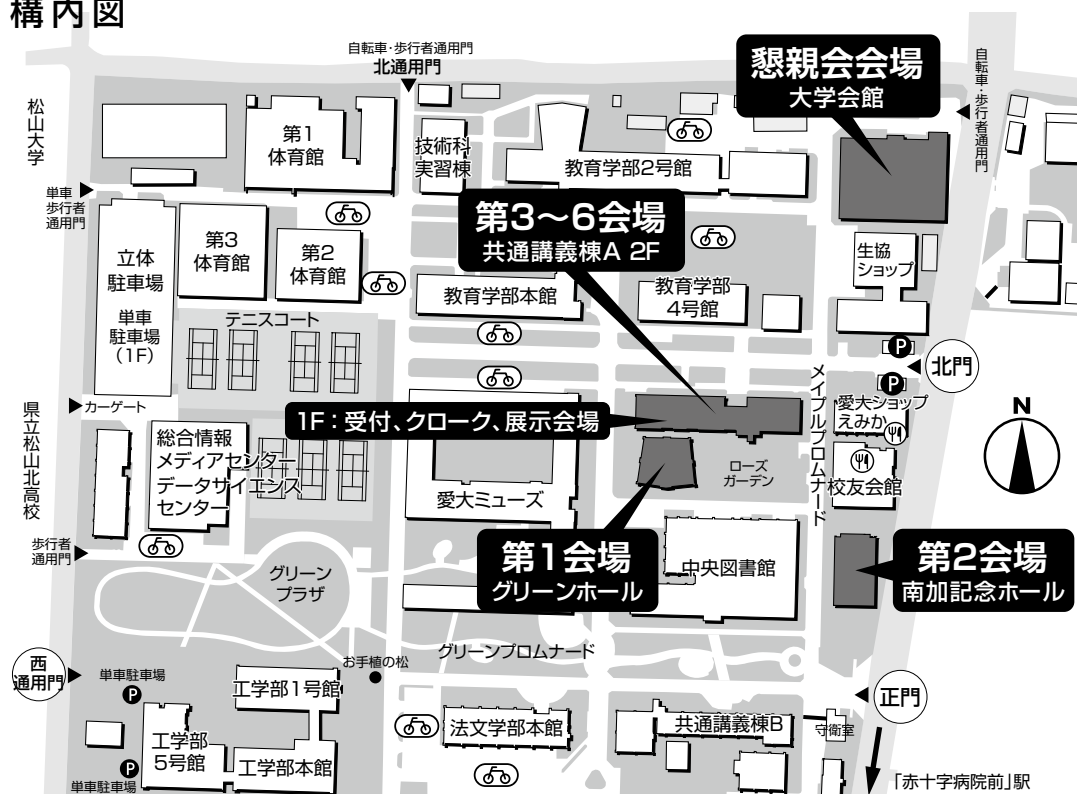
小倉港 ➡ 松山国際観光港※ ➡ JR松山駅 (※松山国際観光港からは接続バスが出ています)

■高速バス (★印は夜行便)

東京★、名古屋★、京都、大阪、兵庫、岡山、高松、徳島、高知、尾道、福山、福岡★

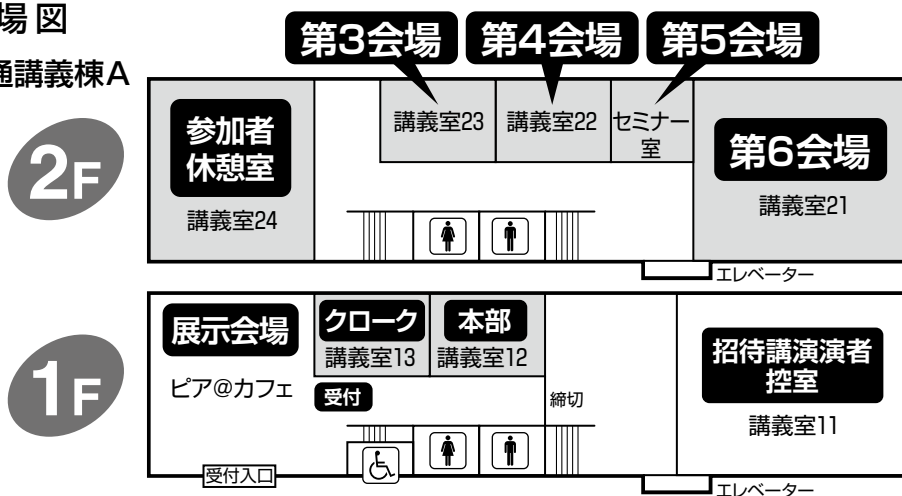
会場案内

構内図

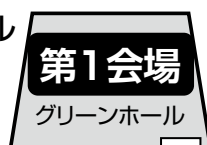


会場図

共通講義棟A



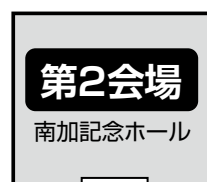
グリーンホール



グリーンホール後方入口
※発表中、グリーンホールへは
後方入口からお入り願います

交流の広場

南加記念ホール



南加記念ホール入口

ご 案 内

最新の情報につきましては、

本学術講演会HP <https://jacd48.secand.net/> をご確認ください。

■事前参加受付

COVID-19の感染対策として、事前参加登録をお願いします。「第48回日本コミュニケーション障害学会」HP (<https://jacd48.secand.net/>) からお申し込み願います。事前参加申込の場合は、参加費のご送金を2022年5月20日(金)15時までにお済ませください。

当日の受付の密を避けるため、原則、**事前参加登録**をお願い申し上げます。事前参加登録をしていただいた方のみ、2日目のランチョンセミナーもお申し込みいただけます。

事前申込学会参加費

会 員：10,000円、非会員：11,000円、学生：無料(当日、参加は有料です)

その他

新型コロナウイルスの感染が縮小しないため、今年度の懇親会は開かないことに致しました。既に参加費をお支払い済みの方には、後日、参加費をお戻しさせていただきます。

予 稿 集：1,000円

2日目お弁当：無料(お茶込み) 2日目会場内レストランはお休みです。

ランチョンセミナーの当日申し込みはできません。必ず事前申込をお願いします。

事前登録による参加費の決済方法は郵便振替・銀行振込のみとなります。参加仮登録後、5月20日(金)15時までには必ず参加費を下記口座へご入金ください。お振込がない場合は、登録を抹消します。また、筆頭演者の場合は発表登録を取り消させていただきます。入金の際の手数料はご自身でご負担いただきますようお願いいたします。

■振込先口座

口座番号：00900-9-198116

口座名義：日本コミュニケーション障害学会学術講演会

または

ゆうちょ銀行：〇九九店(ゼロキユウキユウ店) 【当座】0198116

口座名義：日本コミュニケーション障害学会学術講演会

■参加受付

1. 5月28日(土)、29日(日)とも、8時45分より行います。
2. 新型コロナウイルス感染症拡大時の連絡手段の確保と開催支援費を松山観光コンベンション協会から受け取るために、ご参加の方のお名前、連絡先、ご旅程日程、ご宿泊先の把握をさせていただきます(松山観光コンベンション協会にはお名前・連絡先のデータは渡しません)。登録先：<https://bit.ly/3EGwyHo>
修正がある場合は全データの再登録をお願い申し上げます。
3. 事前に参加申込をお済ませの方には、5月25日(水)までに名札・参加証・お弁当券をご登録のご住所にお送りいたします。
名札をお持ちの方は当日、受付においでになる必要はございません。
4. 名札等をお忘れの場合や、参加証・名札をお受け取りができていない方は共通講義棟 A 棟1階西側にある受付においでください。参加証・名札・お弁当券を再発行します。
5. 「当日受付」は共通教育棟 A 棟1階西側にある受付においでください。



【新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、可能な限り事前に参加申し込みをお済ませください】
所定の用紙にご参加の方のお名前、連絡先等をご記入の上、参加費をお支払いください。
当日参加お申し込みの方の参加費は次の通りです。学生無料の措置はありません。

会 員 11,000円

非会員 12,000円(予稿集は含みません)

予稿集は、受付にて1冊1,000円で販売しております。

お支払いは現金のみでお願い申し上げます。釣り銭が不要ようにご準備願います。

■進 行

【口頭発表】

1. 座長の方へ

- (1) 当日、ご出席確認のための WEB システム^{*}にて会場へのご到着をお知らせ願います。

※ WEB システムの URL は座長の先生のご登録メールアドレスに事前にお知らせいたします。
当日、ご面倒ではありますがメールが受信可能なスマホなどをお持ち下さい。もし、お忘れの場合は、受付にてご到着確認をお受けいたします。

- (2) 開始予定の10分前には、次座長席にお着きください。
- (3) 1演題の発表は7分、質疑応答は3分です。
- (4) 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。
- (5) ご体調などにより当日の参加ができない場合は、開催事務局にメールにてご連絡をお願い申し上げます。この場合は、実行委員が臨時座長を務めさせていただきます。

2. 演者の方へ

- (1) ご体調などにより当日の発表ができない場合は、開催事務局にメールにてご連絡をお願い申し上げます。演題発表の取り消しをさせていただきます。

(2) 発表データ(スライド)について

- ① 演者の方は、ご発表 2 時間前までにスライドデータを jacd48@h-tachi.com までメール添付でお送りいただくか(メールでの受付期間=5月23日~29日)、または、受付横の「スライド受付」に USB にてお持ち下さい。USB は事前にウイルスチェックをお願いします。
- ② 受付近くに登録済みスライドを確認できる PC を配置します。スライドの事前確認は各自で行ってくださいますようお願い申し上げます。

(3) 発表用データについて

- ① 発表は会場設置の PC (Windows のみ) を使用していただきます。
- ② 用意しているコンピュータの OS とアプリケーションは以下の通りです。
OS : Windows10
プレゼンテーションソフト : Microsoft Power Point 365
スライドサイズ 16 : 9
- ③ 動画・音声等を使用される場合は、必ずファイルに「動画」「音声」を挿入してください。「動画」「音声」を「リンク」でつながれた動画や音声は会場では再生できません。
- ④ ファイルの取り間違えを防ぐために、ファイル名を [演題番号_発表者の姓_動画・音声の有無] に統一して下さい(英数字は半角)。
例) 演題番号 1B-01、愛媛柑橘さんの場合は [1B-01_愛媛.pptx] となります。
動画がある場合は [1B-01_愛媛_動画.pptx]
音声がある場合は [1B-01_愛媛_音声.pptx]
動画と音声がある場合は [1B-01_愛媛_動画音声.pptx] とのファイル名にしてください。
- ⑤ 文字化けを防ぐために、OS 標準フォントをお使いください。
- ⑥ 音声記号のフォントの多くは「特殊記号」ですので、PC が異なると文字化けの可能性が高くなります。お手数ですが、音声記号は画像として貼り付けてください。また、事前に発表データ確認用 PC にて、そのスライドの確認をお願いします。
- ⑦ 発表データは学会終了後、事務局にてクラウドごと破棄します。

(4) 発表について

- ① 次演者は前もって会場内左手前方の「次演者席」にご着席ください。
- ② PC の操作は演者ご自身でお願いします。演題には、メインスクリーンと同じ画面のディスプレイとスライド操作用のマウスを設置しております。Power Point の発表者ツールは使用できません。Power Point のノートを使用している方は事前に印刷をして手元に置かれてご発表をお願い申し上げます。操作支援・補助が必要な場合は各会場の映像担当者にお命じください。
- ③ 発表時間は 7 分、質疑応答は 3 分です。
発表終了 1 分前と終了時に合図をいたします。終了時間を厳守してください。
- ④ 後日のオンデマンド配信のためにご発表時のプレゼンの内容と音声を録画させていただきます。

3. 質疑応答

- (1) 質疑応答は1演題につき3分です。
- (2) 質疑応答は座長の指示に従ってください。
- (3) 発言者は最初に所属・氏名を述べてください。
- (4) 録音を致しますので、必ずマイクロフォンを通してご発言ください。
後日のオンデマンド配信のために当日のご質問内容を録音させていただきます。

【学会誌用の抄録原稿】

発表者の方は、「コミュニケーション障害学」掲載用の発表抄録原稿を、以下の要領で提出してください。

- (1) 『『コミュニケーション障害学』掲載用一般演題抄録原稿執筆要項』を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、手順にそって原稿を作成してください。メールで件名「抄録原稿送付(演題番号)」とし、「添付ファイル」で学会事務局アドレス宛(jacd48@h-tachi.com)にお送りください。
受付期間は5月28日(土)から6月11日(金)正午までの期間です。
執筆要項ダウンロード先 <https://jacd48.secand.net/annai.html>
- (2) 抄録は「コミュニケーション障害学」(2022年12月末刊行予定)に掲載する予定です。

■クローク

共通教育棟 A 棟1階西側にある受付横にクロークを設けます。

5月28日(土)、29日(日)とも、8時45分よりクローク(一時荷物預かり)を開きます。

1日目は8:45～20:15(18:15～19:45は取り扱いしません)。2日目は15:15に閉じます。

クローク札の用意の都合、先着200個までのお預かりとさせていただきます。

■お知らせ

1. 学会発表奨励賞及び研究助成金授与式

5月29日(日)12:55～ 第1会場にて開催します。

2. 企業展示と休憩および昼食

- (1) 共通講義棟 A 棟 1階 受付前にて企業展示・書籍販売を行います。
- (2) 共通講義棟 A 棟 2階 講24室、共通講義棟 A 棟前の「交流の広場」(屋外)を参加者休憩場所とします。ランチョンセミナーを除き、すべての部屋で飲食禁止です。「交流の広場」では飲食が可能ですが、お食事がお済みになりましたら、速やかにマスクをご着用願います。また、ゴミはお持ち帰りをお願い申し上げます。
- (3) 5月28日(土)は生協レストランが開店しております。昼食をお持ち込みになり、会場内(屋内)でのご飲食はご遠慮願います(屋外を除く)。

- (4) 懇親会は開催いたしません。既に参加費をお振り込み済みの方には参加費をご返金申し上げます。
- (5) 5月29日(日)はランチョンセミナーを企画しております。事前申込み者に限り、第1会場にてお弁当を用意いたします。お食事の際は「黙食」をお願いいたします。お食事がお済みになりましたら、速やかにマスクをご着用願います。ご昼食のごみは会場の出口にて回収させていただきます。中継会場の第2会場は飲食禁止です。お弁当のお持ち込みはできません。
- (6) 5月29日(日)にお弁当をお申し込みではない方は、大学近隣の食堂などをご利用ください。
- (7) ご休憩の際も、会場内では常時、正しくマスクを着用することとし、特に他の方とお話しされる場合は必ずマスク着用での会話をお願い致します。
- (8) 学内は全面禁煙となっています。構内のいずれの場所でも喫煙いただけません。

3. その他

拾得物・遺失物のお届け、学会本部に御用の方は受付にお越しください。
参加者のお呼び出しには応じられません。

■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。今学会では、5月28日(土)13:00～14:00に、会話分析研究分科会、口蓋裂言語検査ワーキングチーム、言語発達障害研究分科会を開催いたします。会場はすべて、共通講義棟 A 棟の2階です。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- (1) 会話分析研究分科会：共通講義棟 A 棟 2階(第3会場)
- (2) 口蓋裂言語検査ワーキングチーム：共通講義棟 A 棟 2階(第4会場)
- (3) 言語発達障害研究分科会：共通講義棟 A 棟 2階(第6会場)

日 程 表

第1日目 5月28日(土)

	第1会場 グリーンホール	第2会場 南加記念ホール	展示 ピア@カフェ
8:45	8:45～	開 場 (受付開始)	
9:00	9:00～9:05 開会挨拶		
	9:05～10:05 一般演題 1 言語発達障害 1A-01～06 座長：村尾 愛美	9:05～9:55 一般演題 3 失語症 1B-01～05 座長：中村 光	9:05 }
10:00	10:15～10:45 一般演題 2 ナラティブと言語指導 1A-07～09 座長：大井 学	10:05～10:45 一般演題 4 脳血管障害の後遺症と経緯 1B-06～09 座長：八杉 美奈	17:45
11:00	11:00～12:00 教育講演 1 音声訓練と行動変容理論 城本 修 座長：飴矢 美里	11:00～11:30 一般演題 5 聴覚障害児の言語指導 1B-10～12 座長：平島 ユイ子	企 業 展 示 ・ 書 籍 販 売
12:00	12:00～13:00	11:40～12:10 一般演題 6 聴覚障害児者への情報支援 1B-13～15 座長：喜屋武 睦	
	昼 休 憩		
13:00	13:00～14:00 各種分科会 会話分析研究分科会 (第3会場) 口蓋裂言語検査ワーキングチーム (第4会場) 言語発達障害研究分科会 (第6会場)		
14:00	14:15～16:30 シンポジウム 1 座長：藤野 博 失語症の言語訓練 —どのように、どのくらい行うのか— 中村 光 MIT-J オンラインセミナーと その進捗状況 関 啓子	14:15～16:30 シンポジウム 2 吃音のある子どもの 多面的・包括的指導・支援 座長：岡部 健一 研究報告：小林 宏明 実践報告：坂下 慶光	
15:00			
16:00	16:45～17:45 特別講演 1 栄養・代謝・リズムと「こころ」と「からだ」 —胎児期・新生児期から成人期までの支援— 松井 潔 座長：立入 哉	16:45～17:45 特別講演 1 (第1会場の中継)	
17:00			
18:00			

第2日目 5月29日

	第1会場 グリーンホール	第2会場 南加記念ホール	展示 ピア@カフェ
8:45 9:00	8:45～ 開場 （受付開始）		
	9:00～9:50 一般演題 7 言語コミュニケーション発達の 評価と実践 2A-01～05 座長：大伴 潔	9:10～9:50 一般演題 9 聴覚障害児の学習環境 2B-01～04 座長：立入 哉	9:00 ～ 15:10 企 業 展 示 ・ 書 籍 販 売
10:00	10:00～10:30 一般演題 8 現代社会の諸課題 2A-06～08 座長：石坂 郁代	10:00～10:30 一般演題 10 聴覚情報処理障害 2B-05～07 座長：岡野 由実	
11:00	10:45～11:45 特別講演 2 人生の最期まで食べたいを支援できる 優しい社会の実現へ！ 小山 珠美 座長：宮本 光江	10:45～11:45 教育講演 2 聴覚障害児者の コミュニケーション問題への対応 佐藤 紀代子 座長：立入 哉	
12:00	11:45～ お弁当配布 （第1会場前）		
	12:00～12:50 ランチョンセミナー 発達性ディスレクシア（読字障害）の 評価と支援 石坂 郁代 座長：大伴 潔	12:00～12:50 ランチョンセミナー （第1会場の中継） ※第2会場は飲食禁止	
13:00	12:50～13:00 学会発表奨励賞／ 研究助成金授与式・ 次年度会長挨拶	12:50～13:00 （第1会場の中継）	
14:00	13:10～14:20 一般演題 11 ASD の支援 2A-09～15 座長：田中 早苗	13:10～13:50 一般演題 13 吃 音 2B-08～11 座長：小林 宏明	
	14:30～15:00 一般演題 12 知的障害児の言語指導 2A-16～18 座長：大井 学	14:00～14:30 一般演題 14 小児の発音発語 2B-12～14 座長：高木 潤野	
15:00	15:10～ 閉会挨拶	14:40～15:10 一般演題 15 他職種連携 2B-15～17 座長：白井 なずな	
16:00			

プログラム

特別講演 1 5月28日(土) 16:45～17:45

第1会場(グリーンホール)

座長：立入 哉(愛媛大学 教育学部)

栄養・代謝・リズムと「こころ」と「からだ」 —胎児期・新生児期から成人期までの支援—

松井 潔 神奈川県立こども医療センター 総合診療科

特別講演 2 5月29日(日) 10:45～11:45

第1会場(グリーンホール)

座長：宮本 光江(大阪警察病院)

人生の最期まで食べたいを支援できる優しい社会の実現へ！

小山 珠美 NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長
JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院 摂食機能療法室

教育講演 1 5月28日(土) 11:00～12:00

第1会場(グリーンホール)

座長：飴矢 美里(愛媛大学 医学部 耳鼻咽喉科)

音声訓練と行動変容理論

城本 修 県立広島大学 保健福祉学部

教育講演 2 5月29日(日) 10:45～11:45

第2会場(南加記念ホール)

座長：立入 哉(愛媛大学 教育学部)

聴覚障害児者のコミュニケーション問題への対応

佐藤 紀代子 県立広島大学 保健福祉学部

シンポジウム1 5月28日(土) 14:15～16:30

第1会場(グリーンホール)

座長：藤野 博(東京学芸大学大学院教育学研究科)

S1-1 失語症の言語訓練
—どのように、どのくらい行うのか—

岡山県立大学 保健福祉学部 現代福祉学科 教授 中村 光

S1-2 MIT-J オンラインセミナーとその進捗状況

三鷹高次脳機能障害研究所／日本MIT協会 会長 関 啓子

シンポジウム2 5月28日(土) 14:15～16:30

第2会場(南加記念ホール)

座長：岡部 健一(旭川荘南愛媛病院)

[吃音のある子どもの多面的・包括的指導・支援]

S2-1 **研究報告**

吃音がある子どもの多面的・包括的指導・支援

金沢大学 人間社会研究域学校教育系 小林 宏明

S2-2 **実践報告**

通級指導教室での実践報告

四国中央市立三島小学校 通級指導教室 坂下 慶光

ランチョンセミナー 5月29日(日) 12:00～12:50

第1会場(グリーンホール)

座長：大伴 潔(東京学芸大学 特別支援教育臨床センター)

発達性ディスレクシア(読字障害)の評価と支援

石坂 郁代 北里大学 医療衛生学部

会話分析研究分科会

第3会場(共通講義棟 A 講23)

口蓋裂言語検査ワーキングチーム

第4会場(共通講義棟 A 講22)

言語発達障害研究分科会

第6会場(共通講義棟 A 講21)

一般演題（口頭発表）

第1日目 5月28日(土)

① 言語発達障害 9:05～10:05

第1会場（グリーンホール）

座長：村尾 愛美（東京学芸大学 教育学部 特別支援教育教室）

- 1A-01** 言語発達に課題のある児童の実態
— 教員による評価と LCSA からの検討 —

東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター 大伴 潔

- 1A-02** 漢字書字におけるチャンキングについての検討
— 漢字・図形間での比較 —

上智大学大学院 言語科学研究科 言語聴覚研究コース 清野 諒平

- 1A-03** 英語の読み書きに困難さを示す児童生徒の
早期発見を目的としたスクリーニング検査の開発

北里大学大学院 医療系研究科 上岡 清乃

- 1A-04** 年中児における名前書字と言語機能の関連

聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科 中村 哲也

- 1A-05** 文の多様性による早期言語発達評価法の開発（第1報）
— 30ヶ月の定型発達児と言語発達障害児との比較 —

埼玉県立小児医療センター 遠藤 俊介

- 1A-06** 読み困難児1例における音読・音韻処理能力の変化 — 縦断研究 —

東京学芸大学 迫野 詩乃

② ナラティブと言語指導 10:15～10:45

第1会場（グリーンホール）

座長：大井 学（金沢大学 子どものこころの発達研究センター）

- 1A-07** ナラティブを用いた言語指導法の開発1：指導法の概要

新潟大学 教育学部 入山満恵子

- 1A-08** ナラティブを用いた言語指導の開発2：通常級在籍の小3児への実践例

兵庫教育大学 大学院 濱野 小牧

- 1A-09** ナラティブを用いた言語指導法の開発3：自閉スペクトラム症児への試み

法政大学 松浦 千春

座長：中村 光(岡山県立大学 保健福祉学部)

1B-01 Bilingual 失語症者の言語ペアと症状及び回復パターンの関連性について
—日本語と他言語における文献考察—

医療法人協和会 協和マリナホスピタル 兼光 加美

1B-02 患者状態適応型パス(PCAPS)における言語リハビリテーション可視化の試み
—言語聴覚士の判断への介入—

社会医療法人 雪の聖母会 中島 栄子

1B-03 活動・参加レベルの目標に対する在宅失語当事者と支援者の視点の比較
～トーキングマット日本語版での検討～

北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻 市川 勝

1B-04 失語症者の就労を促進する要因の分析：4症例を通して

医療法人社団健志会 ULU 訪問看護ステーション 保土ヶ谷 奈良 佳奈

1B-05 失語症者のインターネットを利用した
コミュニケーションの現状とその支援について

上智大学大学院 言語科学研究科 言語聴覚研究コース 宮島 伶奈

座長：八杉 美奈(済生会松山病院 脳神経内科(パーキンソン病センター)・
リハビリテーションセンター)

1B-06 右中大脳動脈領域の脳梗塞後、失文法及び FAS を呈した1症例

浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 牧野 巧

1B-07 復職希望の右半球損傷患者1例に実施した
談話の聴覚理解と気づきについての介入

医療法人社団慈誠会 練馬駅リハビリテーション病院 木下 美帆

1B-08 アパシーと感情障害を呈した一症例の臨床経過の検討

熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 畑添 涼

1B-09 失調性構音障害における仰臥位姿勢の効果の検討

目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科 松本かおり

⑤ 聴覚障害児の言語指導 11:00～11:30

第2会場(南加記念ホール)

座長：平島 ユイ子(福岡国際医療福祉大学)

1B-10 聴覚障害児における音韻意識の発達状況から見た
作文の誤りの傾向について

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 渡部 杏菜

1B-11 聴覚障害教育における、英単語のふりがなの振り方と
発音習得への教員の意識について

東京学芸大学 佐藤 楽夏

1B-12 聴覚障害児の英語の語彙習得におけるスペル転記と読みの関連

東京学芸大学 小林 汰門

⑥ 聴覚障害児者への情報支援 11:40～12:10

第2会場(南加記念ホール)

座長：喜屋武 睦(福岡教育大学 教育学部 特別支援教育ユニット)

1B-13 共生社会の形成に向けた難聴児への情報保障支援(第2報):
文字情報の共有に関連する課題の検討

つくば市立竹園東小学校 奥沢 忍

1B-14 地域の公立中学校に在籍する難聴生徒の健聴生徒と共有する
情報保障に関する検討

武蔵野大学 大学院 人間社会研究科 言語聴覚コース 藤田芝圭美

1B-15 受傷で緊急入院したろう者が語る
医療従事者とのコミュニケーション場面で抱く思い

新潟大学 医学部 保健学科看護学専攻 菊永 淳

第2日目 5月29日回

⑦ 言語コミュニケーション発達の評価と実践 9:00～9:50

第1会場(グリーンホール)

座長：大伴 潔(東京学芸大学 特別支援教育臨床センター)

2A-01 複合語処理の発達における音声、語彙および統語の処理方略の相互影響性に関する検討

愛知大学 短期大学部 杉本 貴代

2A-02 学齢期の場面緘黙児の言語表出能力の特徴 — 状況絵の説明課題を用いた検討 —

東京学芸大学 教育学研究科 特別支援教育高度化プログラム 栗林 希帆

2A-03 選択性緘黙を示す自閉症児への支援事例 — 刺激フェイディングおよび親子同席による面接構造の活用 —

新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科 石本 豪

2A-04 発達障害学齢児に対する意味連合検査(SAT)臨床応用の試み

NPO法人 DK・できること おおきなかぶ 岡本 朗子

2A-05 気になる小学生への動作法にアプローチ (行動とコミュニケーションに視点をあてて)

尚綱学院大学 心理学類 三好 敏之

⑧ 現代社会の諸課題 10:00～10:30

第1会場(グリーンホール)

座長：石坂 郁代(北里大学 保健衛生学部)

2A-06 育児放棄が母子間コミュニケーションに与える影響： アニマルモデルを用いた検討

同志社大学大学院 生命医科学研究科 脳神経行動工学研究室 西堀 諒

2A-07 介護予防事業対象者との動機づけ面接に トークンマット日本語版を組み合わせることの意義：予備的研究

北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻 市川 勝

2A-08 認知症のある人の会話における話題の展開

独立行政法人地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター 田邊 満里

座長：田中 早苗(金沢大学 子どものこころの発達研究センター)

2A-09 勝ち負けにこだわる一自閉症の子の会話を指導するための理論的考察4

NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク

ことばの相談室ひなたぼっこ 山本 正志

2A-10 勝負から攻略・達成へー自閉症の子とゲームでコミュニケーションその10

NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク

ことばの相談室ひなたぼっこ 山本 正志

**2A-11 TRPG のゲームマスター経験は ASD 者のコミュニケーションに
どんな影響を与えたか？ーインタビューの質的分析**

金子総合研究所 加藤 浩平

2A-12 重度自閉症スペクトラムの言語・コミュニケーション指導

ブロッサムジュニア 若葉台・はるひ野教室 辰巳 朝子

**2A-13 思春期・青年期における ASD 児・者の語用能力の発達：
ことばのつかいかたテストによる検証**

大阪大学大学院 連合小児発達学研究科 金沢校 水谷 柳子

**2A-14 ASD 児の PECS フェイズからみた JIS 絵記号利用について
～情報デザインと AAC シンボル～**

児童発達・保育所等訪問支援事業所 マママとまママ 林 文博

**2A-15 自閉スペクトラム症児支援について
ー英国自閉症協会開発の保護者・支援者向けプログラムを実践してー**

いの町ほけん福祉課 丸井美恵子

座長：大井 学(金沢大学 子どものこころの発達研究センター)

**2A-16 若手の多い教師集団(知的障害特別支援学校・小学部)の
国語科の指導に関する実践**

広島県立黒瀬特別支援学校 大本美智子

**2A-17 知的障害児における動詞と項、格助詞の使用の特徴
ー項構造に視点を当ててー**

東京学芸大学 教育学部 特別支援教育教室 村尾 愛美

2A-18 知的障害児の構文理解と CA、MA、VA、言語性短期記憶の関係：
等位節構文と関係節構文を用いた検討

東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 発達支援講座 竹尾 勇太

⑨ 聴覚障害児の学習環境 9:10～9:50

第2会場(南加記念ホール)

座長：立入 哉(愛媛大学 教育学部)

2B-01 軽中等度難聴児保護者の難聴に対する認識と療育態度に関する調査：
重度難聴児との比較

群馬パース大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科 岡野 由実

2B-02 聴覚障害児の学校生活におけるコミュニケーション方略について

愛知淑徳大学 健康医療科学部 言語聴覚学専攻 足立紗矢香

2B-03 通常学級における難聴児と聴児のグループ会話に関係する要因

福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科 平島ユイ子

2B-04 大学生の聴覚障害児との接触経験及び
聴覚障害に対するイメージに関する一検討

福岡教育大学 教育学部 特別支援教育ユニット 喜屋武 睦

⑩ 聴覚情報処理障害 10:00～10:30

第2会場(南加記念ホール)

座長：岡野 由実(群馬パース大学 リハビリ学部 言語聴覚学科)

2B-05 聞こえの困難を示す極低出生体重児の
知的発達と聴覚情報処理能力との関連

上越教育大学 臨床・健康教育学系 小林 優子

2B-06 聴覚情報処理機能評価アプリの適応

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 八田 徳高

2B-07 産業医の指摘により医療機関受診した成人 APD 症例

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 川上 紀子

座長：小林 宏明(金沢大学 人間社会研究域学校教育系)

2B-08 改訂版エリクソン・コミュニケーション態度尺度(S-24)の
日本語の標準データの収集と信頼性・妥当性の検討

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 飯村 大智

2B-09 心因性吃音と判断した一事例

近畿大学病院 リハビリテーション部 久保田 功

2B-10 ことばの教室に通級する重度吃音児に対する発話の流暢性の促進に
焦点を当てた指導

府中市立住吉小学校 高橋 三郎

2B-11 当事者性があることと援助者であることの〈交差性〉の意義：
吃音がある ST の語りの分析から

関西福祉科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 工藤 芳幸

座長：高木 潤野(長野大学)

2B-12 構音発達についての新たな視点 ―モーラの確立過程から見て―

上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 藤巻加奈子

2B-13 構音障害児の姿勢・運動面に注目して理学療法を導入した一例

IMS グループ 医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院 渡部梨沙子

2B-14 幼児のオーラルディアドコキネシス検査において最大能力を引き出す
教示の検討：モデル音声の速さの影響

県立広島大学 保健福祉学部 小畠理恵子

座長：臼井 なずな(信州上田医療センター・丸子中央病院)

2B-15 気管切開児の地域生活およびスピーチバルブの装用効果に関する検討
—アンケート調査からの分析報告—

埼玉県立小児医療センター 保健発達部 遠藤 俊介

2B-16 小中学校特別支援学級を担当する
教員の言語聴覚士に対するニーズ調査(第2報)

海老名市教育支援センター 佐々木ゆり

2B-17 難聴特別支援学級・通級指導教室担当教員の困り感に関する一研究

東京学芸大学 教職大学院 特別支援教育高度化プログラム 飯塚わかな

特 別 講 演 1

栄養・代謝・リズムと「こころ」と「からだ」
—胎児期・新生児期から成人期までの支援—

松井 潔

神奈川県立こども医療センター 総合診療科

座 長：立入 哉(愛媛大学 教育学部)

5月28日(土) 16:45～17:45

第1会場(グリーンホール)

演者 プロフィール

松井 潔(まつい きよし)

1986年 愛媛大学医学部 卒業

1986年 神奈川県立こども医療センター ジュニアレジデント

1988年 同 神経内科 非常勤

1990年 国立精神・神経センター小児神経科 レジデント

1992年 神奈川県立こども医療センター 新生児科 医長

2005年～ 同 総合診療科 部長

現在に至る

専門領域：

小児科、小児神経、新生児

所属学会・委員等：

日本小児科学会

日本小児神経学会

日本周産期新生児医学会

日本てんかん学会

資 格：

小児科専門医、小児神経専門医

著 書：

- 最新！育児新百科 新生児期から3才までこれ1冊でOK！
(ベネッセ・ムッ, たまひよボックス, たまひよ新百科シリーズ, 2018)

栄養・代謝・リズムと「こころ」と「からだ」 —思春期・青年期の支援に向けて—

松井 潔

神奈川県立こども医療センター 総合診療科

「障害や疾患があっても健康で豊かに過ごせるための工夫」についてお話させていただきます。

■自己紹介

- 肢体不自由児施設で過ごした経験
- 「栄養・代謝・リズム：新しい方法論をめざして」須田正己
- 重症心身障害児施設での経験
- 超低出生体重児の病理標本
- 経験がないのに新生児科医の常勤にしてもらった
- 産科部長：そんなに超音波検査が好きなら胎児エコーをしてみたら？
- NICU 卒業生をフォローアップしていたら、病院長いわく「総合診療科を新設するので頑張りなさい、なにをやってもいいよ」。
- 総合診療科でようやく小児科医になれたかな？

■診断と説明

- 胎児診断は疾患と同時に障害の診断にもなることが多い。両親への説明が必要。
- 新生児期は一生のなかで最も痙攣を起こしやすい。
- 脳室周囲白質軟化症や脳室内出血の退院前 MRI 検査での異常は発達の遅れ、麻痺、てんかん発症のリスクが高い。
- 全般的な発達の遅れは遺伝子異常や重度の知的障害と関連する。

〈小児科医は測るのが仕事〉

- 母子手帳、保育園・幼稚園、学校の身体計測値から成長曲線を作成する。
- BMI (カウプ指数) は木の折れやすさ指数？
- 乳幼児期は外来受診毎に発達測定する。遠城寺式検査は短時間で発達のパターンを評価する。

■栄養・代謝

- 長期の経管栄養は摂食障害になりやすい。
- 自閉症は偏食、ビタミン欠乏になりやすい。
- 母乳栄養児は鉄欠乏に注意する。

■ リズム

- Spiral milky way (天の川)
- 地球のリズムと月のリズム
- 排便のリズム

■ 「こころ」と「からだ」

- 「こころ」が病めば「からだ」も病む、「からだ」が病めば「こころ」も病む。
- 不登校の多くは小児慢性疲労症候群である：ストレスは健康によい？

■ 年齢ごとの特徴

- 新生児と乳児：泣くのが仕事というけれど・・・
- 幼 児：病気になりやすい。
- 小学生：病気に罹りにくくなる。1年生は体力がない、1-3年生は素直、4年生から脳が大人になる。
- 思春期：眠いし疲れやすい、「こころ」と「からだ」両方の症状(ダイナミックな成長曲線変化)。

■ 言語はユニバーサルデザイン

- 気管切開児：声がでる子、出ない子。
- 基礎疾患に伴う難聴。
- 聴覚に問題がないのに言葉がでない：失語と dyslexia。

■ 診断書作成

- 頼まれたら書く、ダメもとでも書く。

■ 成人移行

- 生まれたときから成人移行という若手医師の新鮮な感覚。

■ 最後

- 「ヒトはなぜ認められたいのか：アイデンティティ依存の社会学」 石川 准

一 般 演 題

(口頭発表)

1A～1B

第1日目 5月28日^土

第1会場(グリーンホール)

第2会場(南加記念ホール)

1A-01

言語発達に課題のある児童の実態 ―教員による評価と LCSA からの検討―

大伴 潔

東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター

【はじめに】小学校の「ことばの教室」では言語障害を対象とした通級による指導が行われ、言語発達面に困難のある児童が指導を受けている。本研究は、児童の言語面の困難度に関するチェックリストによる評価が、客観的な言語検査の結果とどのように対応するのかを検討するとともに、知的障害のない児童における発達性言語障害(DLD)の特徴を明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象：東京都・千葉県の小学校12校において、言語発達の遅れを主訴として指導を受ける1～4年生(検査実施時)の児童68名を対象とした。学校と保護者から研究協力への同意を得た。

評価方法：担当教員が児童の言語面の特徴に関する17項目からなるチェックリストに3件法で困難度の評価を行い、評価値の相関関係等から6領域にまとめ、領域ごとの平均値(評価スコア)を求めた。また、LCSA(学齢版言語コミュニケーション発達スケール)を実施し、評価スコアとの関連性を検討した。

【結果と考察】参加児のLCSA指数は57～108の範囲であり(中央値80.5)、LCSA指数80を境とする上位群と下位群間で比較したところ、「聴覚的理解」「語彙」「文表現」「文章」のチェックリスト領域における評価スコアは上位群と下位群間で有意差が認められた。「聴覚的理解」の困難度はLCSA下位検査の「口頭指示の理解」「語彙知識」「慣用句・心的語彙」「文表現」の各評価点と有意な負の相関($p < .01$)を示すなど、LCSA下位領域の低下の組み合わせが異なる困難の実態に寄与していることが示された。さらに、LCSA下位検査プロフィールにも個人差が大きく、DLDの言語面の実態は多様であった。DLDは困難の重篤度は一元的ではなく、語彙・統語・談話、理解・表出など多面的であるとともに、発達水準のアンバランスさと環境要因が個人差を生じる。困難度の主観的評価と検査結果とを組み合わせることで指導・訓練の目標を設定することが効果的な支援につながると考えられる。

1A-02

漢字書字における チャンキングについての検討 ―漢字・図形間での比較―

清野 諒平¹⁾、原 恵子¹⁾、道又 爾²⁾、青木 さつき³⁾

1) 上智大学大学院 言語科学研究科 言語聴覚研究コース

2) 上智大学 総合人間学部心理学科

3) 東京医療学院大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

【はじめに】漢字書字困難には、複数の要因が考えられるが、その一つとして、視覚的な情報処理の問題が関与している事が考えられる。海保・野村(1983)は、部首などといった字形の特徴を視覚的に抽出する過程をチャンキングと呼び、処理効率の向上に寄与するものとした。これに関連して中村(2017)は、部首を扱うスキルの未熟さが、漢字書字の低成績に繋がる事を示した。また荻布(2020)や大伴(2009)は、Rey複雑図形や立方体といった図形に対する視覚的な情報処理が、漢字書字の正確性と相関する事を示した。

【目的】漢字書字におけるチャンキングの役割の検討と、図形模写と漢字書字正確性との関係を検討する事を目的とする。

【方法】定型児18名(小1…9名 小4…5名 小5…2名 小6年…2名)と、普段の学習の様子から漢字書字困難が疑われる児童7名(小1…1名 小2…1名 小3…4名 小5…1名)に、以下の3課題を行った。①漢字模写課題(親和性の程度が異なる漢字14文字の模写)、②図形模写課題(Rey複雑図形と立方体の両要素を組み合わせた図形の模写)、③漢字書字課題(STRAW-Rと大伴(2009)を参考にした課題)。研究は上智大学の「人を対象とする研究」に関する倫理委員会の承認を得て行った。

【結果と考察】漢字模写課題は、定型群では全漢字で8割以上の達成率となり、親和性の影響はほぼ認められなかった。しかし定型群の小1と書字困難児群では、子部首の親和性が低い漢字で成績低下が認められ、このレベルのチャンキングの困難さが示唆された。定型群の小4～小6では、図形模写課題と漢字書字課題の間に正の相関が生じたが、両課題の成績が上限に偏っており、解釈は慎重を要する必要がある。図形模写課題に検討を加え、この結果を確認する事が今後の課題である。

1A-03

英語の読み書きに困難さを示す 児童生徒の早期発見を目的とした スクリーニング検査の開発

上岡 清乃

北里大学大学院 医療系研究科

【目的】上岡ら（日本LD学会第30回大会、2021）では、英語の読み書きに困難さを示す児童生徒の早期発見を目的として作成したスクリーニング検査の予備調査結果について報告した。本研究では、さらに対象者数を拡大して行った本調査の結果と、本検査の有効性について報告する。

【方法】対象は、A県内およびB県内の公立小中学校の通常学級に在籍する児童生徒1,218名（小学5年生267名・6年生269名、中学1年生327名・2年生285名・3年生70名）であった。検査は、認知神経心理学的モデル（Kay, Lesser & Coltheart, 1992）に沿った7課題で構成し、教室内にて集団形式で実施した。読みに関わる能力を評価する問1～問5の合計を読み得点、書きに関わる能力を評価する問6・問7の1分間あたりの書字数を書き得点として算出し、各々で得点分布の-1.5SDを下回った者をリスク群として抽出することとした。

【結果】学年間で有意差が認められた（ $p < .01$ ）ため、カットオフ値は学年別に設定した。各学年の読み得点においては、小学5年生7.1%（19名）、6年生6.3%（17名）、中学1年生9.8%（32名）、2年生9.5%（27名）、3年生7.1%（5名）が抽出された。書き得点においては、小学5年生4.5%（12名）、6年生5.2%（14名）、中学1年生5.8%（19名）、2年生5.3%（15名）、3年生4.3%（3名）が抽出された。

【考察】英語圏でのディスレクシアの出現率はおおよそ4～20%と報告とされている（Shaywitz, 2021）。本研究でも、読み得点において同様の結果が得られたことから、本検査の有効性が示唆されたと考えられる。また、本検査の構成は認知神経心理学的モデルに基づいており、英語の読み書きの困難さの背景となる認知機能を推定することができ、一人ひとりの弱さに配慮した指導へと繋げていくことができるものであると考えられる。今後は、抽出された児童生徒の実態を把握し、本検査の妥当性についても検討を重ねる予定である。

1A-04

年中児における名前書字と言語機能の関連

中村 哲也¹⁾、小林 マヤ²⁾

1) 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部
言語聴覚学科

2) 昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科

【はじめに】子どもが書くことを学ぶ最初のステップは自分の名前を書けるようになることであるが、幼児が自分の名前を書けるかどうかには差がある。欧米では、この差は早期リテラシー発達の側面や運動技能、問題行動といった様々な要因との関連が指摘されている。しかし、日本では名前書字がどのような要因と関連しているかの研究に乏しい。そのため、年中児を対象に日本における名前書字の発達と言語機能の関連性について検討した。

【方法】こども園に在籍する年中児49名（月齢平均64.0 ± 3.4カ月、男児23名 / 女児26名）を対象とした。

名前書字検査は、白紙を渡して「あなたの名前を書いてください」と指示して名前を書字させた。評価方法はLiberman（1985）の評価マトリックスを日本語に修正したものに基づいて0～10点で採点した。

言語機能の検査は、WPPSI-Ⅲの言語理解指標（VCI）、絵画語彙発達検査（修正得点）、音韻意識検査として語頭・語尾選択課題（語頭・語尾、各10試行）、仮名一文字の音読検査（ひらがなとカタカナ各18文字）を実施した。

本研究は所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】名前書字検査と各言語検査について Pearson の累積相関係数を算出した。絵画語彙発達検査（ $r = 0.45$ ）、音韻意識検査（ $r = 0.45$ ）、仮名音読検査（ $r = 0.36$ ）とは相関が認められたが、WPPSI-ⅢのVCI（ $r = 0.19$ ）とは相関は認めなかった。しかし、VCI80未満の5名を除くと WPPSI-ⅢのVCI（ $r = 0.31$ ）は名前書字との相関を認めた。

【考察】年中児における名前書字は言語機能全般との相関を認め、名前を書かせるという簡単な課題で言語機能のスクリーニングが出来る可能性がある。しかし、VCI80未満の子どもを含むとVCIは名前書字との相関を認めなかった。これは、名前書字は視空間認知や家庭の学習環境、運動発達など言語機能以外の要因とも関連するためと推測された。

第48回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会
予稿集

2022年4月25日発行

発行者：第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会長 立入 哉

開催事務局：〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
愛媛大学教育学部聴覚障害児教育研究室内
E-mail：jacd48@h-tachi.com

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

